

**【2014年の営巣状況】 ≧2014（平成26）年も営巣なし≪  
～オスは婚活を続けるもメスは来ず～**

2014（平成26）年も十三崖では、チョウゲンボウの営巣は確認されませんでした。この「営巣なし」という結果は、2013（平成25）年に引き続き2年連続になります。

2014（平成26）年も3月中旬には、十三崖で2個体のオスが確認されました。そして、下旬にはメスも確認され、4月上旬には2つの巣穴近くで求愛給餌や交尾が観察されました。しかし、4月下旬には、メスの姿は十三崖から見えなくなってしまいました。5月中旬から下旬にはメスが複数回観察され、オスの求愛飛行が見られましたが、それらのメスもその後は確認されていません。オスはその後も6月下旬まで巣の近くで観察されていました。餌を持ち、十三崖から中野市街地方面へ飛び去るため、メスを探していると推測されましたが、結局メスはその後は確認されませんでした。

2014（平成26）年も、十三崖でチョウゲンボウが営巣しなかった理由は明確ではありませんが、2013（平成25）年と同様に、ハヤブサの影響が考えられます。ハヤブサは2014（平成26）年も繁殖に成功しました。そして3月下旬には、夜間瀬川下流にある人工巣穴で、チョウゲンボウがハヤブサに攻撃を受けた情報もあります。また、毎年応援団事務局で行っている十三崖周辺での生け捕りわなによるネズミ類の密度調査では、2014（平成26）年も主食のハタネズミが1個体も捕獲されませんでした。このハタネズミの低い生息密度も、2014（平成26）年に十三崖でチョウゲンボウが営巣しなかったことに関連しているのかもしれませんが。

中野市周辺の十三崖以外の繁殖地の営巣状況は、2013（平成25）年と大きな違いはありませんでした。なお、飯山市北部の繁殖地では、営巣場所が通常みられる穴状の場所ではなく、棚状の場所にありました。棚状の営巣場所は、穴状のものより天敵から襲われやすく、風雨の影響も大きいと推測されます。もしかすると、北信地方では営巣に良好な巣穴が少ないのかもしれませんが。

今後、十三崖でチョウゲンボウの集団営巣を保全していくには、ハヤブサやハタネズミの関係等をさらに明らかにし、他の繁殖地の状況も踏まえ対策を考える必要があると考えられます。



**▲5月中旬に飛来したメス**



**▲餌を持って市街地方面へ向かうオス**